

牧之原市教育委員会 会議録

令和3年12月27日、牧之原市教育委員会が牧之原市役所相良庁舎に招集された。

この委員会に付議するため、教育長の告示した議案は次のとおりである。

付議議案

- 報告第22号 牧之原市教育委員会後援名義使用の許可について
- 報告第23号 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について
- 報告第24号 第3回牧之原市就学支援委員会について
- 議案第19号 牧之原市立小中学校の学校運営協議会委員の委嘱について
- 議案第20号 令和2年度牧之原市教育委員会の自己点検・自己評価報告書について

出席委員

1番 橋本 勝	事務局	教育文化部長	内山卓也
2番 澤田 衛		学校教育課長	杉田雅良
3番 吉住幸子		社会教育課長	八木康仁
4番 寺井ゆみ		スポーツ推進課長	大石昌秀
5番 池ヶ谷祐太		教育総務課長	水野敬子
		教育総務課主幹	榛葉円香

開会時刻 午前9時00分 牧之原市役所相良庁舎会議室

開会（教育総務課長）

教育長挨拶

令和3年も残り少なくなった。今年一年を振り返ると、昨年同様、新型コロナウイルス感染症との関わりが多い一年だったように思う。何かと制約が加わり、思うように計画が進まないこともあったが、そういった中においても学校教育、社会教育、スポーツ推進等、教育文化部が所管する事業等が着実に推進できたと思っている。これもひとえに職員のチームワークや関係する機関・団体等の協力があってこそその成果である。まだしばらくはコロナとの闘いが続くが、これまでの経験値を生かして、来年はさらに良い年にしたい。

会議録署名人の決定（事務局より指名）

橋本教育長と池ヶ谷委員を指名

教育長報告

令和3年11月26日から12月26日までの主な行事について報告

議事の概要・議決事項

報告第22号 牧之原市教育委員会後援名義使用の許可について

(事務局より説明)

1件の申請について、質疑・意見なく承認された。

報告第23号 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

(事務局より説明)

6帯8名から申請があり、質疑・意見応答後、1世帯1名が非認定、5世帯7名が承認された。

報告第24号 第3回牧之原市就学支援委員会について

(学校教育課長より説明)

質疑応答なく、承認された。

議案第19号 牧之原市立小中学校の学校運営協議会委員の委嘱について

(学校教育課長より説明)

質疑応答なく、承認された。

議案第20号 令和2年度牧之原市教育委員会の自己点検・自己評価報告書について

(各課長より説明)

質疑応答後、承認された。

教育委員

評価指標はどう決めているのか。活動指標や成果指標はどう設定しているのか。

教育総務課長

教育委員会独自のものとなく、総合計画の評価指標を使っている。総合計画で目標と手段を設定し、評価している。教育委員会として行う12事業について評価し、総合計画の中で、活動・成果指標は各課で定めている。

教育委員

例えばICT活用推進事業は、タブレットや無線LANの整備が活動指標になっているが、効果的に使い自分の考えを説明や主体的、対話的な学びにつながっているかの指標になるのか。

教育総務課長

環境整備は手段として整備し、その下の成果指標でIC

Tを活用した授業を実践できる教員と児童、最後の指標は市民アンケートによるもので授業がわかる児童生徒の割合としている。

教育文化部長

昔は、活動指標のみで会議の回数や整備の数だけだったが、それでどう変わったのかを追加した。手段としてはインフラを整え、どういう成果が出たのかは市民アンケートの結果から持ってくる流れとなっている。

教育委員

総合計画と連動しているということでよいか。前は、回数や実数ばかりで、無味乾燥だったが今はアンケート結果等で意味のあるものになったという印象である。

教育文化部長

成果指標は出しにくい状況はある。何が減った、増えたのかは見えにくい。道路を作って、渋滞や交通事故が減ったとかではない。教育分野はなかなか目標設定や評価指標を設けるのは難しい。今後、第3次総合計画の次期計画では見直していく。

教育長

令和2年度は、コロナで目標に対し成果があげられなかった部分もあるが、今後コロナと共存しながら、令和3年度も同様に進めていく。

教育委員

時期が学校再編やコミュニティ・スクールなど、通年で進めているものが多い。総合計画審議会でも、いかにして人口を増やすか、教育に期待を寄せている。どうしたら魅力をつくっていくのかを考えるのが寛容かと思う。

教育委員

成果指標は決めるのは難しいので、回数で測れない成果もあるので、例えば市民学習推進事業の講座の受講人数でなく、新しく始めた講師や学びを始めた数などを成果としてみるなどもよいのではないかと思う。

適応教室の児童の来室数が多いのがよいのかということもあると思う。

教育文化部長

相談件数が増えたから学校へ行ける子が増えたなら成果であるが、相談件数の多いことがよいのかということもある。課題のある子が増えたのか、PRや信頼により相談が増えたのかもある。

教育委員

9年を連続させる学び、小中一貫教育は以前から考え方があったのか。

学校教育課長

以前も小中連携から小中一貫教育になり、文科省から出て、最近になって法改正がH28に改正された。学校が離れていてもできるが、学校が一体になると活動しやすいと考えている。

教育文化部長
教育委員
市としては、望ましい教育のあり方で明確に出している。
自己点検・自己評価は永遠に続く事務だと思うし、これだけの労力をかけているので、もう少し突っ込んだものにしてもよい。例えば、はりはらを合同にしてどのような成果が出たのか、どう変わったのかが分かるようにしていけばよいと思う。

教育文化部長
第3次総合計画の基本計画は、4年に1回に作るため、次の計画は評価を踏まえて、次の指標を決めていく。成果指標が思うように上がらないのであれば、変えていく必要があるというように、反省していく指標でもある。

教育委員
自宅でできるトレーニングの動画など、知らなかった。B&Gの行事でPR、認知がされていないのかと思う。

スポーツ推進課長
ユーチューブの動画をホームページにアップしている。

教育文化部長
事業をやっても、運動する人が増えていないと、成果が上がっていないことになってしまうので、広報に努めたい。

教育長
このように評価し、翌年度の事業、次期の計画に生かしていくようにしていきたい。

閉会（閉会時刻 午前11時34分）